

## 立命館先進研究アカデミー(RARA)学生フェロー募集要項

### I.目的

立命館大学は、2030年に向けた中期計画(「R2030 チャレンジ・デザイン」)において、「社会共生価値の創生を図ることのできるイノベーション人材の育成」を柱のひとつに掲げている。その具体的施策として、「立命館先進研究アカデミー※」(以下、「RARA」と言う。)を設置し、大学院生を含む若手研究者から本学を牽引する中核研究者までの研究者のキャリアパスに応じた研究環境の抜本的充実を図ることとした。

本学では RARA を基盤とし、博士後期課程学生が自らの専門研究分野を深めるだけでなく、分野を異にする他の研究者等との協働を通じてソーシャルインパクトを発揮することのできる「T型博士インパクトメーカー」を育成する「RARA 学生フェローシッププログラム」(RARA×SPRING)を推進している。さらに、RARA×SPRING に加えて、次世代 AI 技術を駆使して社会課題を解決できる能力を備えた次世代 AI 分野の博士人材を育成する「RARA 学生フェローシップ次世代 AI 分野プログラム」(RARA×BOOST)を展開している。

2026年度も博士後期課程学生のうち、特に優秀な学生を「RARA 学生フェロー」として選抜・採択を行い、採択された学生が、これらのプログラムを通じて他者と共創しながら総合知を駆使して社会課題の解決に向けてリーダーシップを発揮することのできる博士人材へと成長することを目指す。

#### ※立命館先進研究アカデミー(Ritsumeikan Advanced Research Academy/ RARA)

本学の先導的・先進的研究拠点の形成に向けてリーダーシップを発揮することが期待される中核研究者の集まり(アカデミー)のことです。RARA を基盤にする研究者は、本大学の核となり他の研究者を巻き込み、先進研究の推進に取り組みます。

RARA は、本大学の先進研究を牽引する中核研究者である「RARA フェロー」、中核研究者へのステップアップに向け実績を積み重ねる「RARA アソシエイトフェロー」、次世代の研究者として活躍が期待される「RARA 学生フェロー」から主に構成されます。

詳細はこちらをご確認ください <https://rara.ritsume.ac.jp/>

### II.プログラム内容について

本プログラムでは「T型博士インパクトメーカー」ならびに「次世代 AI 高度産業人」の育成を目指し、主に3つの枠組みで「RARA 学生フェロー」を支援する。なお、プログラムは原則、日本語で実施する。

①研究交流の場(「RARA コロキウム」)では、RARA フェロー等のトップ研究者による講演や多様な研究科に所属する RARA 学生フェロー同士の協働を促進し、複眼的な視座から自身の

研究分野を相対的・客観的に捉える能力を高めていく。

- ②研究報告の場(「RARA コモンズ」)では、本学園(1小学校、4 中学校、4 高等学校、16 学部・21 研究科)の児童・生徒・学生、そして40万人の校友(卒業生)への研究のアウトリーチ活動を通じて、自身の研究の意義や楽しさを、世代を超えて多様な層に伝えていく能力を身に付けていく。
- ③学内の研究組織、海外拠点および多様な産学官の協働ネットワークを活用しながら組成されている PBL や海外イマージョンプログラム、インターンシップ等の課題解決型・分野横断型の研究・教育プログラムを展開し、そこで RARA 学生フェローが培った経験や獲得した能力の評価・検証を進めていく。

上記に加え、RARA×BOOST では、次世代 AI 高度産業人(研究者含む)育成に向けた RARA 支援ユニットを形成し、以下の3つの視点から支援プログラムを実施する。

①グローバルに活躍出来る次世代 AI 研究者の育成

RARA フェローや RARA アソシエイトフェローが持っている国際研究交流ネットワークを活用し、短期留学や他研究機関で研鑽が出来るようにサポートを行う。

②学際領域や異分野融合研究プログラムへの参画経験を持つ次世代 AI 研究者の育成

立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)のプロジェクトとの繋がりを通じて、次世代 AI 分野を専門とする研究室とのつながりを強化する。

③起業・事業化を志向する次世代 AI 研究者の育成

立命館社会起業家支援プラットフォーム(RIMIX)との連携によって、AI 研究の成果等の利活用を促進する。

また本プログラムの推進事務局である RARA オフィス(大学院キャリアパス推進室)は RARA 学生フェローに対してコーディネーターを配置し、RARA 学生フェローが自身の成長を実感できるように適切な指導・アドバイスをを行う。

加えて、RARA 学生フェローとして選抜された博士後期課程学生には、研究費と研究活動支援金(生活費相当額)を支給する。

### III.募集内容

名称	RARA 学生フェロー
募集人数	RARA×SPRING 博士後期課程 1 年次 38 名程度 博士後期課程 3 年次 14 名  RARA×BOOST 博士後期課程 1 年次 2 名

	<p>【補足】</p> <p>1) 審査の結果、RARA×BOOST に応募した者が RARA×SPRING で採択、RARA×SPRING に応募した者が RARA×BOOST で採択となる場合ある。</p> <p>2) 採択者から欠員が生じた場合、事務局から個別に補欠採択者へ連絡・繰上採択の意向確認を行う。</p> <p>3) 文部科学省による SPRING の制度見直し(「今後の科学技術人材政策の方向性(中間まとめ)」令和 7 年 7 月 30 日科学技術・学術審議会人材委員会)を受け、RARA×SPRING で採用された留学生の支援内容は以下のとおりとなります。なお、RARA×BOOST に変更はありません。※FAQ10 ページ参照</p> <p>①2026 年度は、研究活動支援金の支給・研究費の配分あり(従来制度)</p> <p>②2027 年度以降は、<u>研究活動支援金の支給なし</u>・研究費の配分あり(新制度)</p>
採用期間	<p>2026 年 4 月を開始月として、標準修業年限までの期間を支援する。</p> <p>(例)2026 年度に博士後期課程 1 年次の場合： 2026年 4 月 1 日～2029年 3 月 31 日</p>
応募資格	<p>以下のいずれかに該当している者。</p> <p>ただし、文部科学省国費留学生、外国政府奨学金受給者、日本学術振興会特別研究員、併給不可の奨学金受給者、および生活費相当額として十分な水準で、安定した収入を得ていると認められている学生(240 万円/年を基準とする)を除く。応募にあたって対象外となる条件等について不明な点がある場合には、事前に RARA オフィスへ確認すること。</p> <p>【1 年次生の場合】※3 年次生は FAQ7 ページ参照</p> <p>① 2026年度博士後期課程 4 月入学試験に合格している者</p> <p>② 2025年 9 月に博士後期課程の 1 年次に入学した者</p> <p>③ 2026年度春学期に一貫制博士課程の 3 年次相当に在学予定の者 ※申請時にプロジェクト予備演習Ⅲを受講中(4月入学者)、あるいは申請時にプロジェクト予備演習Ⅲの単位を取得した者(9月入学者)。詳しくは衣笠独立研究科事務室(先端総合学術研究科担当)まで。</p> <p>④ 2026年度に 4 年制博士課程の 1 年次に在学予定の者</p> <p>※各入学試験の合格発表日を待たずに申請することができる(「IV.募集・選考日程」の「申請期間」のとおり)。ただし、合格者のみ審査対象とする。</p> <p>※RARA 学生フェローに採択された場合であっても、2026年 4 月 1 日時点で上記要件を満たすことができない時は、RARA 学生フェローの身分を取り消す。</p>

義務	①RARA 学生フェローとしての自覚と責任を持ち研究活動に取り組むこと ②RARA コロキアムや RARA コモンズなど研究部が主催または指定するプログラム、セミナー等に参加および発表すること ③立命館大学研究倫理指針にもとづき、高い倫理観を保持し、研究活動に携わるとともに、不正行為を行わないこと ④研究費は、「立命館大学における公的研究費の管理に関する規程」に基づき、適正に執行すること ⑤コーディネーターによる面談を受けること ⑥年度末の継続審査を受審すること ⑦日本学術振興会特別研究員や財団助成への申請を行うこと ⑧自身の研究成果を Ri-SEARCH 他で発信すること ⑨標準修業年限内に修了すること
支援金・研究費 ※1・4	<b>【RARA×SPRING】</b> ①研究活動支援金 月額 18.5 万円(年額 222 万円)(課税対象)※2 ②研究費 年額 34 万円(上限)※3 <b>【RARA×BOOST】</b> ①研究活動支援金 月額20万円(年額240万円)(課税対象)※2 ②研究費 年額150万円(上限)※3
その他	他の学生の模範となるとともに、学園内の児童・生徒・学生に対する学習支援・研究支援に積極的に関与すること

※1:9月入学者の受給期間は当該入学者の標準修業年限が修了する時点(9月)までとする。  
 受給期間が半期となる年度は、研究活動支援金 111 万円、研究費 17 万円(RARA×BOOST の場合は研究活動支援金 120 万円、研究費75万円)を上限とする。

※2:2 か月ごと、奇数月(5,7,9,11,1,3 月)に支払う

※3:学内規程に基づいて支払う

※4:日本国政府による日本への入国制限等で入国できない場合は、受給することができない。

#### IV.募集・選考日程

対象プログラム	RARA×SPRING, RARA×BOOST
オンライン説明会	2026年1月30日(金)14時00分～、2月3日(火)10時30分～ *いずれも30分程度
申請期間	2026年2月2日(月)～2月27日(金)13:00
採否発表	2026年3月19日(木)

採否通知は申請者本人宛にメールにて通知する。

#### V.応募書類

①2026年度立命館先進研究アカデミー(RARA)学生フェロー申請書(様式1)

※本学学生は「[Ri-SEARCH\(立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム\)](#)」より

出力した「研究業績書」も提出すること。

※本学薬学部生(6回生以上)及び本学博士前期課程学生以外の者は、自身の「研究業績一覧」(様式自由)とあわせて提出すること

②2026年度立命館先進研究アカデミー(RARA)学生フェロー推薦書(様式2)

※博士後期課程の指導(予定)教員へ依頼すること。

③自己PR動画(様式自由)

以下の2点を含む、120秒以内の動画を作成すること。

・「RARA 学生フェロー」着任後に、RARA アカデミーの一員として何をしたいと考えているか(熱意)

・自身のキャリアパスについて(将来像)

[注意事項]

\*自身の顔がはっきり見えるように撮影すること

\*録画方法は自由。ファイル容量に留意し、Zoomによる録画やパワーポイント「スライドショーの記録」など、各自工夫すること

\*動画容量は30MB以内を目安とし、その他申請書類(応募申請書、指導教員推薦書等)と合わせて、100MB以内とすること。

\*提出形式は mp4形式のみ可(mov形式では再生できない場合があるため不可)

※詳細は、「申請チェックリスト」を参照し、間違いのないように作成すること。

※応募書類等の提出物は審査のみに利用する。なお、提出物の返却は行わない。

※応募書類等より取得した個人情報、審査のみに利用する。

## VI.提出方法・提出期限

### (1)提出方法

#### ①Step1

以下のURLより、会員登録を行う。

<https://rw.ritsumei.ac.jp/survey/guest/SVA4FD0.html?key=LNG20240724092552934369029>

#### ②Step2

1) 会員登録後に、改めて上記URLにアクセスし、「入力はこちら」をクリック、申請書類の提出画面へ進む。

2) 申請画面で必要事項を入力の上、応募書類[(1)応募申請書(研究業績書と併せて1ファイルに結合したPDFで保存)、(2)自己PR動画と(3)指導教員推薦書(PDFで保存)]について、所定の添付枠にアップロードし、「申請内容確認へ進む」を押下。次の画面で「申請内容提出」を押下することで、申請完了。

### (2)提出期限

「IV.募集・選考日程」記載の通り。

※期限を過ぎたものはいかなる理由があっても申請を受け付けない。

※申請日時は、申請フォームにて申請が完了した時刻のログに基づき判断する。申請者自身のデバイスの不具合やインターネット環境の不具合等による申請遅延があった場合でも申請

ログのみに基づいて判断するため、期日まで余裕を持って申請すること。

## VII.審査について

### (1)方法

学内に審査委員会を設置し、審査を行う。審査委員会は事業統括を委員長、大学院キャリアパス推進室長を副委員長とし、研究部長、教学部長他、委員長が指名する学内外の有識者から構成し、評価項目に基づき、書面審査を行う。採否は審査委員会の審査結果に基づき決定する。

### (2)観点

- ①RARA 学生フェローへの志望動機(熱意)
- ②これまでの研究活動を踏まえた自身の研究遂行能力
- ③研究計画の適切性と今後の発展性、標準修業年限内に学位を取得できる見通し
- ④研究者の将来目標と本プログラム目的との合致

## VIII.その他

「日本学術振興会特別研究員」に申請中の方も応募することが可能だが、学振特別研究員に採用された場合は、本プログラムを辞退する必要がある。

以上

[お問い合わせ先]

RARA オフィス RARA 学生フェロー担当

Email:rara@st.ritsumeai.ac.jp

TEL :075-813-8560

「立命館先進研究アカデミー(RARA)学生フェローシッププログラム」  
「立命館先進研究アカデミー(RARA)学生フェローシップ/次世代 AI 分野プログラム」  
FAQ

## 1. 応募方法・応募資格

---

Q1-1. RARA フェローの指導を受けているわけではないが、本プログラムへの応募はできるか。

---

A1-1. 応募可能です。RARA フェローの指導を受けない博士後期課程学生からも広く応募を受け付けます。

---

Q1-2. 応募は指導教員の推薦を得ている必要があるか。

---

A1-2. 博士後期課程学生を指導する指導教員の推薦を得る必要があります。本プログラムは RARA 学生フェローとして、個々の研究力を向上させ、国際社会で活躍できる資質と能力を備えた博士人材へと成長していくことを目指しています。そのために、RARA コロキウムへの参加や、附属校等での研究成果報告等を RARA 学生フェローの義務としています。博士後期課程学生自身の研究活動と並行して、RARA 学生フェローとしての責務を果たしていくことを求める観点から、指導教員から事前に本プログラムへの参画にあたっての推薦と了承を求めています。ただし、指導教員からの推薦書を準備できない場合などは事務局へご相談ください。

---

Q1-3. 博士後期課程 3 年次枠での応募資格はどのような内容か。

---

A1-3. 博士後期課程 3 年次枠での応募資格は以下のとおりです。

- ① 2024 年 4 月に博士後期課程の 1 年次に入学した者
- ② 2023 年 9 月に博士後期課程の 1 年次に入学した者
- ③ 2026 年度に一貫制博士課程の 5 年次相当に在学予定の者
- ④ 2026 年度に 4 年制博士課程の 3 年次に在学予定の者

※4 年制博士課程における 4 年次の募集はありません。

---

Q1-4. 【指導教員向け】自身が指導する複数の学生を推薦しても良いか。

---

A1-4. 可能です。複数名の学生の推薦について制限は設けておりません。

---

Q1-5. 応募資格に「既に別事業により支援を受けている場合や、本大学や民間企業等から生活費相当額として十分な水準で、安定した収入を得ていると認められている学生は除く」とあるが、具体的にどの事業での支援を受けていると応募ができないのか。

---

A1-5. 可能な限り多くの博士後期課程学生に対して公平な支援を行う観点から、例示している事業等での支援を受けている学生については、本募集の対象外となります。自身が受給している支援が対象となるのかが不明である場合は、応募前に事務局にお問い合わせください。

---

Q1-6. リサーチアシスタント(RA)として勤務しているが、本プログラムに応募できるのか。

---

A1-6. リサーチアシスタント(RA)として勤務している場合でも、本プログラムへの応募は可能です。ただし、「応募資格」で例示している事業等で支援を受けていないことが条件となりますので、事前にご確認ください。

---

Q1-7. 2026年9月に入学する学生は、本プログラムに応募することが出来るのか。

---

A1-7. 2026年9月入学者は今回の募集の対象ではありません。

---

Q1-8. 「立命館大学外国人留学生授業料減免」規程による授業料減免を受けている留学生は応募することが可能か。

---

A1-8. 応募可能です。

---

Q1-9. 「①2025年度現在休学中で、2026年4月に1年次として復学予定」である場合や、「②2025年度現在在籍しておらず、2026年4月に1年次としてあらためて入学する予定」である場合、応募は可能か。

---

A1-9. ①は過年度の募集期間中に休学していた場合は応募可能です。対象者は必ず事前に事務局へお問合せください。②は応募可能です。

---

## 2. 応募書類・提出

---

Q2-1. AI分野を研究している場合は、RARA×SPRINGではなく、RARA×BOOSTを希望しなければならないのか。

---

A2-1. AI分野を研究している学生でも、RARA×SPRINGを希望することは可能です。各プログラムの支援内容を確認し、希望するプログラムを選択してください。

---

Q2-2. RARA×BOOSTが育成を目指す「次世代AI分野の博士人材」とは、どの程度のレベルのAIの専門性が求められているのか。

---

A2-2. RARA×BOOSTで支援するRARA学生フェローには、以下のようなレベルを期待します。

【例】

- ・日本のイノベーション創出や産業競争力強化に貢献する次世代AI分野の研究者
- ・AIエンジニア・データサイエンティストとしてのスキルを持ち、これを駆使して、ご自身の研究を

遂行できる

- ・進化の著しい AI 技術をキャッチアップし、最適な AI をご自身の研究に導入できる
- ・AI の発展や他の研究への展開等につなげられる

---

Q2-3. 応募書類(様式 1)の研究計画を社会課題解決の観点から記載するよう求められているが、特定の社会課題や研究分野が設定されているのか。

---

A2-3. 環境問題や人口問題といった特定の社会課題や研究分野に限定していません。社会で大きく取り上げられている課題だけではなく、例えば、文学や歴史学の研究分野において、研究成果が将来的に人々に社会課題と認知され、その解決になり得る可能性がある等、RARA 学生フェローの多様な研究テーマに応じた多様な社会課題の解決に繋がる研究計画を期待しています。

---

Q2-4. RARA 学生フェローへの熱意や採用後に取り組みたいことが多く自己 PR 動画を 120 秒以内で作成することができないため、120秒を超過したものを提出してもよいか。

---

A2-4. 自己 PR 動画は 120 秒以内で作成し、提出してください。

### 3. 採択後について

---

Q3-1. 休学する場合、研究活動支援金・研究費の取り扱いはどうなるか。

---

A3-1. RARA 学生フェローが休学するときは、休学が発生した学期の研究活動支援金等の支給を停止します。停止した期間は給付期間に含めませんが、休学期間が通算して 1 年を超える場合、1 年を超えた期間については給付期間に含めます。また、休学中は研究費を使用できません。

---

Q3-2. 次世代研究者挑戦的研究プログラム(国立研究開発法人科学技術振興機構:JST)の採択者としての協力事項はどのようなものか。

---

A3-2. RARA 学生フェローは、JST による以下の事項に協力する必要があり、詳細は採択者に対してお知らせをさせていただきます。

- ① 博士後期課程等学生交流会への参加:
- ② 学生へのモニタリング調査:
- ③ 育成効果の評価及び追跡調査:

#### 4. 2027 年度以降の SPRING 事業について

Q4-1. 留学生の 2027 年度以降の研究活動支援金の取扱いについてはどうなるのか。

A4-1. 文部科学省による SPRING の制度見直し(「今後の科学技術人材政策の方向性(中間まとめ)」令和 7 年 7 月 30 日科学技術・学術審議会人材委員会)を受け、RARA×SPRING で採用された留学生の支援内容は以下のとおりとなります。なお、RARA×BOOST に変更はありません。

①2026 年度は、研究活動支援金の支給・研究費の配分あり(従来制度)

②2027 年度以降は、研究活動支援金の支給なし・研究費の配分あり(新制度)

回生	国籍	プログラム	研究活動支援金		
			2026年度	2027年度	2028年度
新D1	日本人	SPRING	○	○	○
		BOOST	○	○	○
	留学生	SPRING	○	×	×
		BOOST	○	○	○
新D3	日本人	SPRING	○	—	—
	留学生	SPRING	○	—	—

以上